



消防大学校だより

■ 新任消防長・学校長科(第12・13期)

新任消防長・学校長科第12期（平成24年4月17日から27日）及び第13期（平成24年5月14日から24日）を11日間の日程で実施しました。

当課程は、「一般行政職から消防長や学校長に任命された方」を対象に、消防本部または消防学校のトップとして必要となる知識及び技術を習得させることを目的としており、第12期及び第13期、合わせて72名の新任消防長・学校長が入校し、研修に臨みました。

研修では、消防庁長官をはじめ、消防庁幹部による最新の消防行政の動向に関する講義、全国消防長会会長による消防長の役割に関する講話、火災想定部隊訓練、そして指揮シミュレーション訓練等を通じて、消防組織のトップとしての職責と心構えについて認識を深めました。

また課題討議では、「消防長・学校長としての悩みや不安」として、(1) 地域住民の期待に応えるために、

消防はどのようにあるべきか、(2) 消防組織の最高責任者として、消防業務の危険要因と過去の事例を踏まえ、職員が安全に活動できるようにするための方策はどうあるべきか等について、取り組むべき具体的な対応方策について、自らの考えをまとめ、また、その解決に向けた取り組みのあり方について相互に議論し合い、各本部において抱えるそれぞれの課題・事情及び地域特性を情報共有し、理解を深めました。

教育を終えた学生からは、「消防業務の重要性、消防長・学校長としての職責の重さについて、あらためて認識を深めることができ、充実した研修であった。」等の意見が寄せられたところです。

これまでの一般行政部門の幹部職員としての経験に加え、消防大学校で学んだ知識を活かし、それぞれの地域の安心・安全の確保に向けた、消防組織の長としての、大いなる活躍が期待されます。



課題研究・討議（発表）（第12期）



東京消防庁教育支援隊による消防訓練の見学（第13期）

緊急消防援助隊教育科 航空隊長コース(第9回)

「緊急消防援助隊教育科 航空隊長コース(第9回)」は、5月14日から5月25日までの日程で実施しました。本コースは、消防防災航空隊の隊長及び副隊長として活躍している42人を対象に実施し、航空隊の運用・活動統制、安全管理、広域応援、地上部隊との連携等を教育の主眼に置き、その業務に必要な知識及び能力を修得させることを目的としています。

カリキュラムの具体的な内容としては、「航空法規」、「航空工学」などの基礎的知識をはじめ、消防庁幹部職員による「応急対策行政の現状と課題」や「消防広域応援の対応」の講義、自衛隊、海上保安庁及び警察による「航空運用」に関する講義のほか、事前に持ち寄った活動事例について各班の代表が発表し、討議及び研究を行う「災害活動事例研究」や、東日本大震災で全国の航空隊

から応援を受けた宮城県防災航空隊長を講師に招き、受援対応とその実態についての講義を実施しました。また、校外研修として、国土交通省東京航空交通管制部において、「空の道」の安全と円滑な流れの維持を行う業務の様子を視察しました。

今回の研修を受講して、学生からは「講義や災害活動事例研究の内容が幅広く、とても有意義だった。」、「他の航空隊の方との意見交換ができ、共通の悩みを持つ者同士として知り合うことができた。」、「大規模災害時の航空応援・受援要領が理解できた。」などの意見が数多く寄せられました。

今後、消防大学校で修得した幅広い知識や経験を糧に安全を第一に、航空隊の機動力を活かした取組の充実・強化が期待されます。



災害活動事例研究



消防庁危機管理センターでの講義